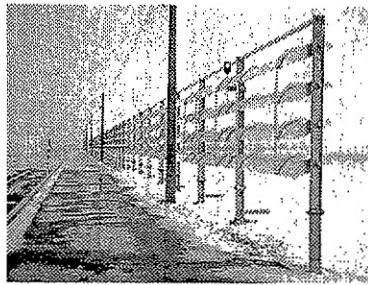


業興研
理(小樽市)

立山アルミ工業 技術提携契約 ニウム工業 スノーブレイド 防雪柵

実用化で販売を開始



県内でも長年実績のある、防雪柵メーカーの理研興業(本社・北海道小樽市 柴尾耕三社長)は、アルミ建材メーカー大手の立山アルミニウム工業(富山県高岡市 要明英雄社長)と技術提携契約を締結。今回、両社が共同で研究開発した翼型防雪柵・スノーブレイドの販売開始を手始めに、今後も両社が持つ優れた技術を融合し、社会のニーズにこたえる画期的な製

品の開発・供給に努めていく考えだ。

立山アルミニウム工業は、昭和二十三年に設立され、ビル・住宅建材を中心に、様々なアルミ製品を製造・販売する業界大手。自由な発想と獨創性に富んだ研究開発力、製造工程の自動化と合理化による高品質で付加価値の高い商品群など、その高い技術と商品力で躍進を遂げている。

この技術提携は、立山アルミが特許を持つ翼型防雪柵に着目した理研興業が、同社が有する防雪柵のノウハウを提供。高精度かつ高性能の製品開発を共同で実現しようとするもの。

今回、その第一弾として販売が開始された翼型防雪柵『スノーブレイド』。写真には、防雪柵を構成する

防雪板にジュウコフスキー翼を採用。柵下流での流れの巻き上がり防止し、濃度の高い吹雪を地面に沿って道路幅全体に渡って移動させ、吹き払うことが可能にした高性能防雪柵。柵高の六倍以上という飛躍的な効果領域を有するのが最大の特徴で、道路幅が二十メートルを越える高規格道路にも対応する画期的な製品として、早くも関係者の注目を集めている。

ジュウコフスキー翼を採用した防雪板は、北見工業大学の坂本弘志教授と立山アルミが共同で研究開発したもので、製品化にあたって、防雪柵メーカーとして五十年の歴史を持つ理研興業のノウハウを生かした。フラットな形状の防雪板を用いた従来の防雪柵は、防

雪板間を通過する流れと下部間隙流との干渉が激しく、柵高の一・五〜二倍下流で吹雪が巻き上がり、視程の悪化と吹き溜まりを生じさせていた。このため、翼形状の防雪板を採用することで、風を遮るだけでなくその力を有効に利用。広範囲にわたり視程障害を緩和し、同時に高い吹き払い効果を発揮してドライバークの安全を確保する(図参照)。

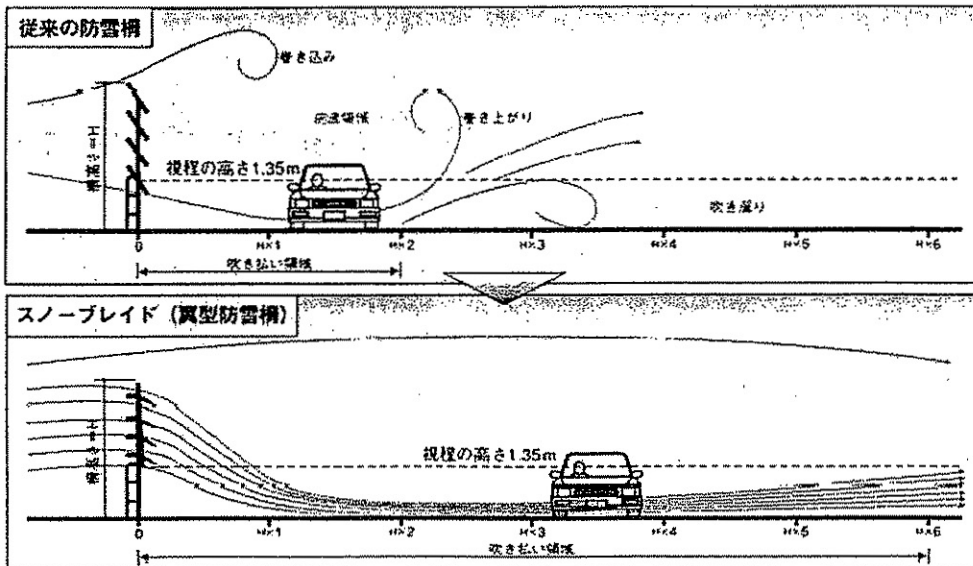
また、従来の吹き払い柵は、主に下部間隙からの吹き出しにより効果を得ている。

たため、下部空間が堆雪や除雪などで塞がれると、著しく効果が低下していた。しかし、スノーブレイドは翼間を通る風によって機能しているため、性能の低下が起りにくく、さらに、強度、耐久性に優れ、軽量なため、基礎部分をコンパクトにできることから、コストの削減も実現する。風洞実験や、実物大模型による風流線観測等を実施し、効果も実証済みで、同社はその高い性能に自信を持っている。

理研興業は、カラマツ間伐材と鋼材を組み合わせた景観性能を追求した「木製高性能防雪柵」や、「上下分流量型防雪柵」、斜風対応型防雪柵など、それぞれ地域の様々なニーズにこたえる製品を次々に開発。各地で着々と設置実績を伸ばしており、同社の柴尾社長は「冬季における道路交通の確保は本道の大きな課題であり、高度化するニーズにこたえていくことは、専業メーカーとしての生命線。今後も当社と立山アルミの

柵高の6倍以上の効果 = 風洞実験で実証 = 高規格道路へも対応

技術力を生かし、より高性能な製品の開発に力を入れていきたいと話している。詳細の問い合わせは、同社東北営業所(青森市古川一丁目十番十三号 青森古川ビル二階 電話017-1735-1188 FAX017-735-2511)まで。



技術力を生かし、より高性能な製品の開発に力を入れていきたいと話している。詳細の問い合わせは、同社東北営業所(青森市古川一丁目十番十三号 青森古川ビル二階 電話017-1735-1188 FAX017-735-2511)まで。